

中1・2生対象

やる気の冬、本気の冬、千葉進研で熱くなる！

冬期講習生募集

中学生 実施教室／東船橋教室、津田沼教室、幕張本郷教室、検見川教室(中2生)を除く各教室

※小学生の冬期講習生募集内容は裏面をご覧ください。※東船橋教室、津田沼教室、検見川教室(中2生)は定員のため募集をしておりません。※各教室の詳しいお問い合わせ先は、裏面をご覧ください。

●中1生 入試出題率の最多学年へ

比較的基礎が中心だった中1も終了し、来年は2年生です。2年生で学習する範囲は公立入試で一番出題率が高いです。英語の単語量は一挙に増え、不定詞や比較・最上級、受動態等々、どれも苦手な人が多い単元です。数学では関数や図形の証明など、じっくり取り組まないとなかなか成績は上がりません。部活に熱も入りますが、中2という学年は、勉強した人としていない人の差がはっきりと大きくつく学年です。それは、学習単元や量が中1の3~4倍あるために、試験前に少しきらり勉強しただけでは間に合わなくなるからです。中2の学習が入試での合否を決めると言っても過言ではありません。

●中2生 志望校を決めてスタート

目標がはっきりしていれば、勉強するときのパワーが違います。まず目標を決めましょう。今の成績はあまり気にしないで行きたい高校がいいと思います。中3になるとテストが増えます。定期試験3回、実力テスト2回という学校が多いです。さらに、志望校を決めるための業者模試(会場模試)を数回受け、目標とする高校を絞っていきます。それぞれのテストで勉強の仕方が違います。定期試験の勉強は、範囲が限られているので一番やりやすいし、通知表に直結するので最優先でやります。一方、入試は全範囲なので定期試験の勉強だけでは不足です。総合範囲の勉強をして成果を模試で確かめています。

重点指導内容と時間数

中1生 中学の勉強法の習得と 中2・中3への基盤作り

- 英語(4時間)【一般動詞の過去形】
一般動詞の過去形の使い方、不規則変化動詞
- 数学(4時間)【立体、空間図形の基礎】
いろいろな立体、直線・平面の位置関係について学ぼう
- 国語(3時間)【文学的文章・説明的文章】
物語・小説、説明文・論説文の問題演習、類義語、漢字など
- 理科(3時間)【大地の成り立ちと変化】
地震の揺れの伝わり方、地震の原因と大地の変動など
- 社会(4時間)【歴史】
ヨーロッパの進出と日本への来航、安土桃山時代など

中2生 2年生範囲のまとめと 受験学年への準備

- 英語(4時間)【現在完了】
現在完了の意味と使い方、現在完了進行形
- 数学(4時間)【平行線と面積、場合の数】
等積変形、線分比と面積比、場合の数の求め方
- 国語(3時間)【文学的文章・総合問題】
物語・小説の読解問題、説明文・小説の総合問題、三字・四字熟語など
- 理科(3時間)【1学期・2学期の復習】
気象とその変化、オームの法則など
- 社会(4時間)【歴史】
第一次世界大戦、大正デモクラシー、世界恐慌など

公立入試の現況

2021年から前期・後期の公立
高校入試制度が一本化され、
来年で3年目になります。

■都市部で高い倍率■

県立船橋高校や東葛高校などの都市部の公立上位高校は高倍率でした(船橋1.77倍、東葛1.82倍)。相当に高い倍率のため、志願変更をして確実に合格できる高校に志願変更した人も多く出ています。上位高校はいずれも少数激戦でした。

■試験問題の難化■

入試問題は、昨年より難化しています。考える問題(思考問題)の割合が多くなっています。問題文をすばやく読み取り、条件に従って的確に解答することが求められています。国語は特にそのような傾向がみられ、受験生は苦労したようです。

■前期・後期制の時との変更点■

- 中学校毎の内申点補正
(※通知表の甘い・辛いの差の補正)の廃止。
- 5教科の試験が、1日から2日間に。
- 英語試験時間が50分から60分に。
(※リスニングの比重が高い)

小3～中2生対象

冬期入塾生募集

入塾テ
スト
&説明会

12/10(土)
•入塾テスト代
1,000円(税込)

無料公開模試 12/3(土)

お申し込み・お問い合わせは、裏面の最寄りの各教室へ。 東船橋教室／津田沼教室／幕張本郷教室／幕張教室／検見川教室／検見川浜教室／稻毛教室／稻毛海岸教室／西千葉教室／鎌取教室／五井教室

千葉進研を
おトクに体験！

冬期講習生
受講料
キャンペーン
実施中！

兄弟・姉妹割引で
2人目以降はさらにお得！

※詳細は各教室にお問い合わせください。



生徒第一主義。だから千葉進研。

公立入試一本化

昨年から、公立高校の入試が前期・後期の2回から1回に変更になりました。前期・後期入試の場合、前期はチャレンジ受験して、後期は確実に合格できる高校を受けるといった受験も可能でしたが、一本化されてチャレンジ受験がしくなりました。どちらが良いかは意見が分かれるところですが、公立高校の定員が大幅に変わることはないので、最終的な難易度は2回の入試も1回の入試も同じと考えて頑張りましょう。新しい入試制度でも、合格を勝ち取るために求められるのは確かな学力です。

受験校の決め方

中学校では受験校を次のような流れで決めていきます。中3の10月頃に三者面談(生徒・保護者・担任)を行い、意思確認をしながら、何回かの調整を経て徐々に決めていきます。その際の重要な資料が実力テストと内申点です。定期試験と実力テストの結果は、大きな差があることが多いです。そのため受験校の決定には、入試と出題傾向の似ている実力テストが優先して使われます。また、内申点は公立入試の得点に加算されて合否判定に使われる所以とても重要です。

定期試験・実力テスト

定期試験は、ふだん教っている先生が作り、範囲も狭いので勉強はし易いです。この定期試験等の結果を基に内申点がつけられます。定期試験直前の勉強時間は、あまり大きな差が出ないので、点数を上げるには早めの準備が大切です。一方、実力テストの伸ばし方ですが、英語・数学のように積み重ねを要する教科は日々の学習が大切です。後々大きな差になります。理科は単元ごとに出題される問題がほぼ決まっています。先生が力をいれて説明してくれるのすぐわかります。社会は歴史・地理とともに中3になって枝葉をつけやすくするために、中1・中2では大きな幹作りをしておきましょう。国語は一番伸びしにくい教科です。読解問題を多く解いて答え方等に慣れておきましょう。

内申点の使われ方

内申点は、主に公立高校の合否判定と私立高校の推薦に使われています。私立高校の併願推薦は、第一志望が公立高校で、押さえとして私立高校を受験する際によく使われますが、私立高校の多くは、併願推薦の内申点の基準を発表して、その基準以上を取っている人をほぼ合格しています。この併願推薦に使われる内申点は、2年後期か、3年前期か、3年後期臨時分かの何れかで、この中に最も良いものを提出すればよいという高校が多いです。併願推薦基準に1点か2点足りない人のために、英検や漢検の合格実績を加算してくれる高校もあります。また、公立入試の判定に使われる内申点は、1年～3年の3年分で、1教科5点×9教科×3年分=135点満点で成績がつきます。昨年まで使われていた内申点の学校間格差を是正する式は今年から使われなくなりました。

2023年高校入試日程

私立高校 入試 1月17日～
公立高校 願書受付 2月8・9・10日
学力検査 2月21・22日
志願変更 2月15・16日
合格発表 3月3日



Chiba Shinken

千葉
進研



JAPHIC
1809120024
千葉進研は
JAPHICマークを
取得しています。

くわしくはこちらから。
スマートフォン・
携帯電話で
かんたんアクセス！

<https://www.chibashinken.com>

■Shufoo!(シュフー)でも発信しています。 シュフー

